2024 年度 事業報告
2024 年 4 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日

公益社団法人 神奈川県助産師会

はじめに

「助産及び母子保健の普及・啓発」「助産師の資質向上のための教育及び環境整備」を主とし、さらなる適切な事務の運営・財務管理の徹底を目指すとともに、日本助産師会や他団体との連携活動を図りながら本会の目的達成を目指した。

I 助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業

本会主催の出前講座を主としたセミナー・研修会を開催し、広く多くの人への助産及び母子保健の普及・啓発に努める

1 助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動

1) 助産及び母子保健の知識の普及・啓発

・タクシードライバーに助産及び母子に関する知識を普及啓発する

タクシードライバー研修 企業からの依頼はなし。

・女性の健康支援を通し、母子保健の知識の普及・啓発を図る

鈴与シンワート株式会社 社員向け講座 オンライン開催。

2024 年 9 月 6 日「女性が健康を保つための効果的な身体づくり」参加者 8 名

2024 年 9 月 27 日「更年期の仕事と健康の両立に向けて」参加者 15 名

日本飛行機株式会社 社員向け講座 対面で実施。

2024 年 12 月 18 日 横浜営業所 参加者 32 名

2025 年 1 月 31 日 厚木営業所 参加者 22 名

・卒業間近の助産師学生が助産師の多様な働き方を再認識し、自己の将来について考える機会を作る

2025 年 2 月 28 日 神奈川県衛生看護専門学校 助産師科 (26 名) に会員が講師となり講義を実施。

・他団体からの要請に応じて会員より研修講師を選定し派遣する

日本助産師会学会ランチセミナー・花王株式会社「職場における出産前からの父親の育児教育」会員を講師として派遣した。150 名参加。

・本会活動や助産及び母子保健、ならびに助産師の教育に関する情報を広報する

ホームページ、ニュースレター、Instagram、本会活動を紹介する情報等、最新の情報を HP に掲載、更新し、ホームページの充実を図った。ニュースレター発行 (7 月号、12 月号) と会員送付。

プレコンセプションケア講座等の活動、とわの日、助産所院長のインタビューや広告 (3 社) を掲載、研修会の案内等を Instagram に投稿した。

2) 子育て・女性健康支援事業

・子育て・女性健康支援センター事業 (ハローベビーかながわ) の推進

電話相談 月曜日～土曜日 (祝祭日・年末年始含) 10 時～13 時 相談件数 466 件

ふれあい助産師サロン ベビーマッサージ&&座談会 6 回/年 計 32 組

※回数を減らし、定員数増加。リピーターの参加者が増加した。

・助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進

助産師が伝える「いのちのはなし」小学校、中学校、高校にて開催 6 施設、6 講座 (2024 年 10 講

座)

地域向け家族で聴く「いのちのはなし」オンライン開催 低学年向け2回、高学年向け2回参加者合計
延べ 親子7組

地域向けいのちのはなし出張講座 依頼なし

地域向け講座開催実施の評価 (2024年8/4・11/10・2025年1/26・3/23)

・地域貢献事業の推進

「とわ助産院」を開放しニーズに合った教室を開催する。

とわの日 2024年10月8日開催した。定期的な母子のための教室(ベビーサイン・産後ボディケア・ヨガストレッチ、沐浴クラス4組)を開催した。

横浜市産後ケア事業(宿泊型、日帰り型、訪問型)、大田区の産後ケア(宿泊型、日帰り型)の受け入れを継続した。

産後ケア(横浜288件 大田区103件 自費入院4件)産後ケア延べ日数704日

横浜市訪問型母乳相談事業 54件/年 中学生の職業体験の受け入れ 2名

入院助産の受け入れ 2024年度はなし。ハローベビー電話管理を実施、緊急の相談員として待機した。「赤ちゃんはなぜ泣く？」をテーマに地域子育て支援での講義を1回行った。

3) 行政機関や関係団体・企業との連携強化

・各種団体及び企業と連携し、助産師を派遣する

逗子市両親教室講師派遣 2024年度から中止した。

赤ちゃん本舗への講師派遣(アリオ橋本店、湘南テラスモール店)

2020年度より新型コロナウイルス感染防止のため中止となり、現在も休止。

イオンモール東戸塚店の助産師相談

第1水・第3日曜 10時~17時 相談員2名、2025年2月3日相談員とミーティング実施。

鎌倉芸術館におけるイベントの開催

胎児人形の展示、新生児人形の抱っこ体験、妊婦体験等。協力助産師4名 参加者約10名。

鈴与シンワートへの講師派遣(助産師による相談室)

9月20日 相談者30分/1回/人にて試行。契約に繋がり2025年度は定期的実施予定。

株式会社ベビーカレンダー相談員派遣 助産師3名で実施。相談件数1238件

スタジオアリスマタニティ・ベビーセミナー講師派遣

川崎市の6店舗にて、マタニティセミナー18回/ベビーセミナー9回実施 協力助産師5名

tvk かながわ MIRAI ストリートイベント(5月25日、26日)への助産師派遣 協力助産師4名

・県委託事業の実施

神奈川県「若年妊婦等支援業務委託」(妊娠SOS かながわ)2024年4月1日~2025年3月31日

LINE相談 延べ1121件 (月曜日~日曜日)16時から21時(年末年始は休み)

電話相談 延べ179件 (月曜日 水曜日 金曜日 16時から21時(年末年始は休み))

アウトリーチ 1件 相談員及び担当者による会議 1回/月実施。

神奈川県内企業向け「プレコンセプションケア出前講座」(2024年度から県業務委託)

2024年4月25日~2025年3月31日 講座用資料の作成、広報活動など行い、17企業18講座を実施

・要望書の提出等、行政機関との連携を強化

関連団体に要望書を作成し、県議会の各会派へヒアリングに行き、本会の要望を説明した。

2024年7月11日 自由民主党神奈川県議会議員団
2024年7月25日 公明党
2024年7月16日 立憲民主党・民権クラブ神奈川県議会
2024年7月11日 立憲民主党

2 助産師業務の安全管理及び支援業務

1) 助産師業務の安全管理

ヒヤリハット等の事例をはじめとし、安全管理にかかわる情報の分析による最新データから助産師を教育し、助産師1人1人が業務上の事故再発を防止及び災害発生時妊産婦、女性の支援体制の確立ができるよう以下の活動を行う。

・異常報告書による事例検討・分析を行い共有し再発防止を図る

安全対策委員会にて、事例検討、分析を実施し事例分析結果を各部会と当該施設に報告した。繰り返す事故に対しては、日本助産師会と共同し再発防止に努めた。

日本助産師会安全対策小委員会連携集会に参加した。

アドバイザー会議の開催：2025年2月27日

神奈川県産婦人科医会医師2名（嘱託医、高次医療機関産婦人科医）新生児科医師1名と助産所院長による会議をオンラインで開催した。今年はアクシデント報告が多く、アドバイザー会議で相談した。分娩件数が減少しているため助産院で抱え込まないように医師から助言があった。

助産所における安全対策実施指導のための活動、転院搬送事例の聞き取り調査、救急搬送における医療情報提供書などに関する周知をした。

・緊急事態が発症した場合、適切かつ迅速な対応に臨む：重症事例4件、事故調査4件

・助産師の損害賠償責任保険への加入推進：部会集会やメーリング等で加入を促した。

・助産所と嘱託医・嘱託医療機関との連携強化を図るための報告会を開催

助産所嘱託医・嘱託医療機関及び協力医療への訪問や助産所と嘱託医・嘱託医療機関の報告会は新型コロナウイルス感染症とその他の感染症の流行が懸念され中止となり、現在も開催していない。

・助産師業務の安全管理を図る

助産所部会委員会にて異常転院搬送報告の分析を実施。ITシステムによる異常及び転院搬送報告書の情報管理を実施。情報の共有により助産業務ガイドラインを遵守するよう周知した。助産所安全管理評価（感染防止のため個人評価）を実施し、日本助産評価機構助産所評価の推進を図った。院長交代した助産所の訪問、転院搬送事例の聞き取り調査、助産所嘱託医・嘱託医療機関及び協力医療機関への情報収集を実施し、安全対策実施指導を行った。

日本助産師会と情報共有し、事故を起こした助産所への訪問、ヒアリング、再発防止の為の支援プログラムを作成した。助産所助産師に対する安全管理研修を行った。

「産後ケア事業の宿泊などによる管理体制について」

2024年8月21日・11月20日・2025年2月19日 講師：蜂谷詠子氏

・保健指導で開業している助産師に対する安全管理基準の周知徹底

インシデント・アクシデント報告書の説明、損害賠償保険加入の推進を徹底した。

日本助産師会からの情報をメーリングにて周知し安全管理に努めた。

ヒヤリハット事例 0件 インシデント・アクシデント報告書 0件

助産師業務安全管理評価表の見直し、集計し日本助産師会へ報告した。

・日本助産評価機構アドバンス助産師更新の総合評価の実施

助産所部会会員、保健指導部会会員 なし

2) 支援事業

・災害時の妊産婦、女性を支援する

自然災害時に行政が対策本部実施の際、とわ助産院が「妊産婦・母子対策センター」となり、安全の確保と助産師のボランティア派遣を行う

・災害支援体制の強化

日本助産師会（災害連携集会）に災害対策委員が1名参加した。

安否確認の実施

会員連絡網(オープンチャット)と会員メーリングを使用した。(218名の安否確認)

ソーラー発電機の設置と貸し出した。(横須賀・三浦、湘南、相模原・県央、西湘地区の4か所)

災害時支援協力助産師の登録制度を組織化し募集に努めた。登録者78名(昨年70名)

災害訓練を実施した。理事や災害時支援協力助産師が参加した。(27名)

災害マニュアルの修正、改定を行い、ホームページ上に掲載した。

神奈川県災害時小児周産期リエゾン会議陪席(3回)した。とわ助産院の備蓄品の管理を行った。

・災害発生時の支援に関する研修の開催

2025年2月22日 災害発生に備えた基礎知識、他 参加者45名

・すくすく赤ちゃん献金事業の推進と実施

2024年度の神奈川県助産師会 すくすく赤ちゃん献金贈呈施設

定非営利活動法人 くだかけ会、一般社団法人 sukasuka-ippo(すかすかいっぽ)

社会福祉法人聖音会 鎌倉児童ホーム 各10万円

2024年度 すくすく赤ちゃん献金 合計58584円

3) 調査・研究

以下の収集データにより調査・研究を行い、その結果をホームページ・会報において公表し、広く多くの人に周知させる。

・助産師が行う研究等の倫理審査の実施

研究倫理審査:1件、研究倫理審査項目に関するフォーマットを作成し、組織の健全化・組織化を図るため、委員長を理事以外の委員とした。

第38回神奈川母性衛生学会へ「災害コンパス」の発表を行った。(災害対策委員会)

・子育て・女性健康支援センター事業(ハローベビーかながわ)のデータ

ハローベビーかながわの電話相談件数・内容を集計しホームページに掲載した。

・いのちのはなし事業のデータ

地域向け「いのちのはなし」実施報告をホームページに掲載した。

・助産所の分娩・搬送に関するデータ

県内23か所(2025年3月)の助産所における毎月の分娩数把握と異常・転院搬送において当会独自の報告書の集計と、ITシステムによる情報収集を毎月行い、データを日本助産師会へ報告した。

・母子保健活動に関するデータ

都道府県助産師会保健指導部会活動調査に協力し、日本助産師会に報告した。本会保健指導部会活動調査(8月実施回収率40.1%)、保健指導部会の会員活動調査を行い、CLOMiPの取得状況の把握を行った。

・クリニカルラダー取得後の労働環境の状況把握

勤務部会：各施設の労働環境を共有（11月2日部会集会研修会を開催：Zoom14名、参集8名）

・助産所実習の受け入れ状況 2023年度分として2024年に実施。

助産所で延べ7,392名を受け入れた。看護学実習2,588名、助産学実習4,741名。

・進学・就職状況のデータの収集

実習受入養成校の進学・就職状況（61校中30校より回答）

看護学生 卒業生 1,812名：助産師養成所への進学（神奈川県内）18名
助産師養成所への進学（神奈川県外）34名
助産師養成課程卒業・修了生 172名
助産師学生就職人数（神奈川県内）34名
助産師学生就職人数（神奈川県外）134名

II 助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業

1 助産師及び助産師養成機関及び看護職の能力向上・スキルアップ

1) 助産師の資質向上のための研修会・講習会

教育委員会が主となり、研修会実施に向けて準備を行い、研修を12回 企画した。

※2024年度 神奈川県周産期医療従事看護職員資質向上研修事業研修

参加者人数 対面319名（会員151名、非会員152名、他府県の会員7名、賛助会員1名）
オンデマンド81名

・産科救急対応に関する研修

- ① 新生児蘇生法Aコース 2024年8月24日 参加者22名
- ② 新生児蘇生法Sコース 2025年1月19日 参加者35名

・助産業務スキルアップを図るための研修会

- ③ 心理面において特別な支援ニーズを持つ母親への対応 2024年9月14日 参加者52名
- ④ 女性の健康に関わる知識のアップデート

・母子保健に関する研修

- ⑤ アドラー心理学にもとづく最近の子育てアップデート 2024年7月13日 参加者24名
- ⑥ 思春期女子の今どきの性、男性の性・男性の性教育

・助産業務に関する安全対策のための研修会

- ⑦ CTG判読・対応 2024年7月27日 参加者30名
- ⑧ 交流集会「母子の安全を守るために各施設で行っていること」

・最新知識に基づく助産実践のための研修

- ⑨ 妊娠・産褥期における母体緊急時の対応
- ⑩ 新生児のフィジカルアセスメント 2024年12月15日 参加者51名

・災害対策に関する研修会

- ⑪ 災害発生に備えた基礎知識
 - ⑫ 災害時対応（実践編）
- } 2025年2月22日 参加者45名

・「いのちのはなし事業」における講師の育成

会議開催にて講義内容の検討、実施心得の作成、地域向け講座を企画した。

・助産院留学の推進・各種講座の広報調整

助産院留学受け入れ 合計 4名 会員 1名 非会員 3名 延べ16日

受け入れ助産院：めぐみ助産院 とわ助産院 かもめ助産院 みやした助産院 助産院バースあおば
山本助産院

・潜在助産師に対する支援

潜在助産師の動向を把握するため、シンポジウムに参加し、アンケート実施した。

2) 円滑な学生実習の受け入れのための支援

・助産所実習調整を学校と助産所の連携強化を行い、助産所における実習の受け入れ環境の整備

助産所実習受入のための教育機関と助産所との調整会議

第39回教務部会 2024年6月14日14:00~14:58 オンライン開催

出席者：教育機関56校、助産所14施設 2023年度卒業生・修了生の動向、情報交換を実施。実習調整が順調であるため、今年度から開催は1回に変更。文書は郵送から電子メール配信へ変更。

・助産所における実習の受け入れ環境の整備

看護師助産師の臨地実習先の確保について、神奈川県健康医療局保健医療部医療整備・人材グループへ相談した。

・学生実習や助産師の研修受け入れを行い、後輩育成に努める

助産所実習システムを利用し、教育機関からの実習生の受け入れを行った。

とわ助産院で助産実習、母性看護学実習の受け入れを行い、学生指導を行った。

実習受け入れ：看護学校7校 延べ284名、助産師学生7校 延べ169名

2 助産師の労働環境等の改善

以下の活動を行い、労働環境の改善を図ることで助産師・助産所の資質向上のための環境整備に力を入れていく。

・病院・診療所における勤務助産師の待遇改善への取り組み

勤務助産師の職場環境について状況を把握し、共有した。

Ⅲ 助産所の運営

本会の収益事業とし、とわ助産院の健全な運営を行う。妊婦健診・分娩介助・育児相談、産後ケア等の事業を行うとともに、本会の公益目的事業である「助産及び母子保健の普及・啓発」を目指し、以下の活動を行う。

・産後ケアの受け入れ

産後ケア事業（延べ日数704日）横浜市288件 大田区103件 自費入院4件

横浜市訪問型母乳相談事業（54件）

・各種研修会・マタニティヨガ・ベビーマッサージ等開催のための研修室貸出し

助産師・学生の技術向上のための実習の場として活用し、研修会開催場所（ZOOM配信として）に協力した。保育園への講演等、行政・近隣の子育て機関との連携強化に努めた。

・助産業務の推進、施設の運営と管理

分娩件数（20件うち転送8件） 妊婦・産後健診（269件）母乳外来（183件）

安全管理指針に基づく従業員への安全管理教育・施設の防犯・防災管理を徹底させ、安心安全な施

設運営に努めた。デジタルサイネージを使用し、広報活動に努めた。

・とわ助産院運営会議等の開催

とわ運営会議にて運営について検討し、運営について話し合った。

会立助産院のビジョンの立て直し検討を続け、次の時代に引き継げる助産院を目標とし、健全な経営に努めた。次期院長について検討した。

IV 会員相互扶助に関する事業

本部・他全国部会との連携の強化を図る。特に以下の活動を行うことで、本会の組織強化と福利厚生
の充実を図る。

1) 連携促進による組織強化

日本助産師会の総会・研修会・部会集会に参加し、情報交換や連携を行った。

会員が神奈川県看護協会 助産師職能委員として委員会に出席した。

未来戦略委員会が中心となり研修会（神奈川県こども医療センター共同企画「産後ケアシンポジウム
2025」不安を抱える母子のケア 速やかな地域連携と切れ目ない支援とは）を実施。参加者 53 名。

・公益事業 賀詞交歓会・受賞者祝賀会の企画・運営

2025 年 1 月 29 日（月） 会場 ローズホテル横浜

参加者：84 名 来賓 14 名、会員 19 名、教員 19 名、企業 7 人、理事・監事 17 人、事務局 4 名

講演：「あたたかいテクノロジーと未来」 GROOVE X 株式会社 青木奈々様

2) 福利厚生

表彰（すくすく赤ちゃん献金表彰等）と表彰推薦を実施した。叙勲なし、慶弔 1 名

V その他

本会の基本財源である会費収益の安定化を図るため、会員ネットワーク推進等の会員増加対策の実現
を目指す。また、各企業・団体への寄付の依頼活動も税制優遇措置を前面に押し出し、リーフレットの
配布・ホームページからの呼びかけ等により、収益の安定化に向けた活動を積極的に行う。

1) 事業活動や運営の安定と強化

理事会、とわ助産院運営会議、事業運営会議、未来戦略会議を実施し、会の活動・運営に関する
必要事項を検討した。必要時、顧問弁護士に相談、助言を受けた。

2) 寄付依頼活動・会員ネットワークの推進・強化

・会員ネットワークの推進・強化

会員連絡網の作成や県下 7 地区との情報共有等による組織内の連携強化を実施した。

当会のリーフレットを発送時に封入し、アピールを図った。当会と会立とわ助産院の [Facebook](#)・
[Instagram](#)にて、研修会やイベントを掲載し、適宜更新した。

・会員増加対策 対面時の研修会に委員長が参加し時間をもらい入会の勧めを行った。

・組織基盤の安定化にむけた活動と管理

第 6 回地区別連携集会の開催（7/23）オンライン

参加者：地区代表者～横浜地区 川崎地区 相模原地区 横三地区 鎌倉逗葉地区
湘南地区 各部会長、組織強化委員、災害対策委員 欠席：西湘地区

県内地域の助産師会との連携が取れ始めた。要望書の書き方や出す時期などよく分からないとの意見あり、3月25日に再度代表者連携集会を行った。

・ **賛助会員入会促進活動**

病院・保健センター・企業と賛助会員に継続のお願い文書を送付した。

賛助会員数：個人2名、企業10社、学校10校、病院0施設：会費2000～5000円/1口

・ **会の円滑な運営のために寄付金を集める**

寄付：関連企業 施設に寄付依頼の文書を送付

寄付者：企業1社、個人1人 寄付金80,000円

ニュースレター（広報誌）の企業広告を募集し、広告費収入を得た。（計3社）

・ **組織内の連携強化**

会員連絡網、LINEオープンチャット（会員全体・各7地区）と会員メーリングリストを活用し、災害時を想定した安否確認を実施した。

県下7地区との情報共有や連携強化のため、第6回地区別連携集会の開催（オンライン形式）を開催した。県下の母子保健サービス等の情報シートを追加更新した。

部会集会やメーリングリストで日本助産師会・当会の連絡事項、研修の案内等の情報共有に努めた。

3) 財務管理

・ **会の運営が健全に行われるように活動を行う**

周産期医療従事看護職員資質向上研修事業の収支報告書作成

収支予算案の立案、毎月の収支管理、会計監査・決済報告

寄付金の確認と報告、会員人数及び動向を把握、会費の管理

2024年度 新入会43名 退会26名（物故者除く）総会員数642名（2025年3月31日）

以上。